

中央大學新築校舍落成記念記事

法学新報 第36卷第11号(大正15年11月発行)所収記事

## 沿革の概要

明治十八年七月 東京市神田區錦町に創立、英吉利法律學校と稱す、其學科は法律學に限らる、法學博士増島六一郎氏校長たり

創立者は 磯部醇、西川鐵次郎、穗積陳重、岡山兼吉、奥田義人、岡村輝彦、渡邊安積、高橋一勝、高橋健三、山田喜之助、増島六一郎、藤田隆三郎、江木衷、合川正道、菊池武夫、澁谷懺爾、土方寧、元田肇の十八氏なり

明治二十一年一月 煉瓦二層樓の新築校舎落成す

明治二十二年十月 東京法學院と改稱、校長を院長と改む

明治二十四年四月 院長増島六一郎氏辭任、法學博士菊池武夫氏之に代る

明治二十五年四月 神田大火の際類焼の災に罹り六百有餘坪の校舎と本院及高橋法律文庫所藏の圖書數萬卷とを併せて焼失す

明治三十七年八月 本院を大學組織に改むること、し校名を東京法學院大學と改め社團法人と爲し新學則の認可を受け院長を學長と改む

明治三十八年七月 經濟學科を置く

明治三十八年八月 校名を中央大學と改む

明治三十八年十一月 創立第二十年の記念事業として記念講堂を建築す總建坪約百二十五坪、學員

諸氏の寄附に成る

明治四十二年八月 商學科を置く

明治四十四年四月 創立第二十五年の記念事業として校舎を増築す總建坪約三百八十坪、學員諸氏の寄附に成る

明治四十四年九月 法學科に複講座制を開始す

明治四十五年七月 學長菊池武夫氏逝去し法學博士奥田義人氏之に代る

大正元年十一月 奥田文庫成り獨逸國フオン・ビルクマイヤー博士の藏書を得て之に充つ

大正二年三月 學長奥田義人氏辭任、法學博士岡村輝彦氏之に代る

大正三年六月 學長岡村輝彦氏辭任、奥田義人氏之に代る

大正四年六月 創立第三十年記念事業として維持基金を募集し十二月記念式を舉行す

大正六年六月 火災に因り千有餘坪の校舎と多年苦心蒐集したる圖書數萬部、奥田文庫竝に諸家より寄託を受けたる一萬有餘の書籍悉く烏有に歸す

大正六年八月 學長奥田義人氏薨去し法學博士岡野敬次郎氏其後を襲ひ東京市麴町區元衛町一番地に假校舎を設く

大正七年八月 東京市神田區錦町に新築中の校舎竣工す總建坪約四百坪

大正七年十二月 大學令公布せらる

大正八年三月 大學規定公布せらる

大正八年五月 社員總會に於て社團法人中央大學を解散し財團法人中央大學を設立す法學博士岡

野敬次郎氏學長たり

大正九年四月 大學令に依り財團法人中央大學の設立認可せらる

大正九年六月 豫科校舎三階建一棟新築成る延坪參百坪

大正九年十二月 文學博士法學博士末松謙澄子爵未亡人生子刀自より博士遺愛の書籍を寄附せられ本學圖書館内に末松文庫を設く

大正十年七月 學位令公布せらる

大正十年九月 中央大學々位規程及學部教員會規則認可せらる

大正十一年五月 鐵筋「コンクリート」造四階建三百二十坪の圖書館竣工す

大正十二年四月 鐵筋「コンクリート」造三階建三百坪の増築校舎竣工す

大正十二年九月 大震災災に罹り圖書館と増築校舎とを殘し他の建物悉く燒失す學長岡野敬次郎氏辭任、法學博士馬場愿治氏學長事務取扱として就任す

大正十三年二月 岡野敬次郎氏再ひ學長の任に就く

大正十四年六月 東京市神田區南甲賀町六、七、八番地舊戸田伯爵邸跡の地所約千九百七拾坪を校地として購入す

大正十四年十一月 埼玉縣入間郡所澤町に地所を購入して運動場に充つ坪數約壹萬坪

大正十四年十二月 學長岡野敬次郎氏薨去、馬場愿治氏學長事務取扱として就任す

大正十五年二月 學長事務取扱馬場愿治氏學長として就任す

故岡野學長令嗣節氏より博士遺愛の藏書及圖書資金を寄贈せられ本學圖書館内に岡野文庫を設置す

大正十五年九月 從來の校地及校舎の全部を賣却す、東京市神田區南甲賀町の校地に新築校舎落

成し爰に移轉して同十三日より授業を開始す、地下室附三階建總建坪約二千八百坪、全部鐵筋「コンクリート」造、設計者工學博士阿部美樹志氏、工事請負者大倉土木株式會社

大正十五年十一月 故法學博士男爵穗積陳重氏忌辰に際し令嗣重遠博士より故博士遺愛の藏書若干部竝に多額の金額を寄附せられたる爲め之を基本として本學圖書館内に穗積文庫を設置す

本大學創立者は既に記したる十八氏なりしが明治二十年創立者の外數氏を加へて維持員と稱するに至り明治三十六年に及び校名を東京法學院大學と改むると同時に社團法人と爲し維持員の稱を廢して社員と爲す社員には數名の教員及出身者を加ふ斯くて大正九年財團法人の組織に改むるに當り更に之を評議員と改稱し更に十數名を加へ尙ほ大正十五年五月に至り數名を補充したり開校以來今日に至る迄創立者、維持員又は評議員たりし者左の如し(×印の者は死亡)

磯部醇	西川鐵次郎	×穗積陳重	×岡山兼吉
×奧田義人	×岡村輝彦	×渡邊安積	×高橋一勝
×高橋健三	×山田喜之助	×江木衷	×合川正道

嘗て本學職員たりし諸氏左の如し

× 菊池武夫	× 澁谷惺爾	× 大谷木備一郎	× 松野貞一郎
× 高橋捨六	× 伊藤高行	× 石山彌平	× 岡野敬次郎
× 坂崎備	× 三宅碩夫	× 穂積八束	× 岡松參太郎
× 大場茂馬	× 横田千之助	× 渡邊勘十郎	× 指田義雄
× 坂本彌一郎	立作太郎		

院長 增島六一郎	學院長 菊池武夫	學長 岡村輝彦
學長 奧田義人	學長 岡野敬次郎	學長 伊藤悌治
理事 奧田義人	理事 土方寧	
理事 岡野敬次郎	理事 松本丞治	
監事 花井卓藏		
幹事 澁谷惺爾	幹事 渡邊安積	幹事 松野貞一郎
幹事 山田喜之助	幹事 奧田義人	幹事 藤田隆三郎
幹事 土方寧	幹事 佐藤正之	

## 現在の組織

六

中央大學は財團法人にして其寄附行爲に因り若干名の評議員ありて諸般の事項を議決し執行機關として理事六名を置き理事は互選に依り學長を定む又監督機關として監事三名を置く

其學科は大學部及其豫科と専門部とに別れ大學部は法學部、經濟學部及商學部の三分科とし之を綜合して大學院を置く豫科は之を分ちて第一部及第二部の二と爲す専門部は法學科、經濟學科及商學科の三科なり

○學部に於ては法律、政治、經濟、商業に關する學術の理論及應用を教授す各學部の修業期間は三學年なり各學部に三年以上在學して卒業したる者は其學部に從ひ法學士、經濟學士、商學士と稱することを得

○大學院に於ては學部に於て教授する學術の蘊奥を攻究せしむ其在學年限を定めす二年以上在學する者は研究したる事項に付卒業論文を提出して學位を請求することを得

○大學豫科に於ては中學校第四年級修了者及之と同等以上の學力を有する者を入學せしめ各學部に入るに必要な高等の普通學科を教授し其修學期間を三學年とす其第一部は法學部及經濟學部に進む者の爲、其第二部は商學部に進む者の爲に適切なる授業を爲すものとす

○専門部に於ても亦法律、政治、經濟、商業に關する學術の理論及應用を教授す其修學期間を三學年とす専門部の學生を正科生及別科生の二種に分つ正科生は中學校卒業者及之と同等以上の



學力を有する資格を以て入學したる者、別科生は其以外の者にして志願者の履歴に就き詮衡の上入學を許したる者とす

尙ほ専門部の卒業者にして既修の學科に付て深遠なる研究を爲さんと欲する者の爲に研究科を置き其修業年限を一年以上三年とす研究科の試験に及第し法學科を卒業したる正科生は中央大學専門部法學士、經濟學科を卒業したる正科生は中央大學専門部經濟學士、商學科を卒業したる正科生は中央大學専門部商學士と稱することを得

○評議員

現在の評議員及教職員

伊藤 秀雄	飯田 延太郎	磯谷 幸次郎	稻田 周之助
井上 八重吉	池原 鹿之助	池田 寅二郎	石原 毛登馬
馬場 愿治	花井 卓藏	馬場 鏌一	鳩山 秀夫
原 嘉道	林 頼三郎	濱田 國松	西川 一男
堀江 專一郎	穂積 重遠	堀 竹雄	富田 勇太郎
大田 黒英記	太田 資時	小野 瀨不二人	小倉 敬止
若尾 璋八	河野 秀男	加瀬 禧逸	川久 保源治
金井 延	片山 義勝	吉田 久	田中 隆三
田中文藏	武田 明	高野 金重	高窪 喜八郎
根津 千治	中橋 徳五郎	中川 銑三郎	中村 啓次郎
中山 佐市	植村 俊平	卜部 喜太郎	桑田 熊藏
久米 良作	倉富 勇三郎	山田 三郎	前田 米藏
前田 直之助	増島 六一郎	松本 烝治	牧野 菊之助
藤田 隆三郎	二上 兵治	二神 駿吉	小松 林藏

○職員

學長理事 馬場 愿 治

理事 土 方 寧

監事 卜部喜太郎

幹事 天野 德 也

理事 馬 場 鏌 一

理事 花 井 卓 藏

監事 河 野 秀 男

監事 田 中 文 藏

理事 佐 藤 正 之

理事 林 賴 三 郎

監事 田 中 文 藏

永瀧 久吉  
 有賀 光 豐  
 青 木 信 光  
 青 山 衆 司  
 新井 要 太 郎  
 荒 井 操  
 佐 藤 正 之  
 佐 竹 三 吾  
 柵 瀬 軍 之 佐  
 喜 多 孝 治  
 木 下 謙 次 郎  
 岸 清 一  
 三 浦 大 五 郎  
 美 濃 部 達 吉  
 宮 岡 恒 次 郎  
 鹽 谷 恒 太 郎  
 志 水 小 一 郎  
 土 方 寧  
 廣 井 辰 太 郎  
 元 田 肇  
 森 本 邦 次 郎  
 須 賀 喜 三 郎

○教員

稻 田 周 之 助  
 池 田 寅 二 郎  
 石 川 文 吾  
 岩 本 勇 次 郎  
 飯 塚 敏 夫  
 井 上 貫 一  
 伊 藤 綠 良  
 伊 東 正 彌  
 犬 丸 巖  
 馬 場 鏌 一  
 林 賴 三 郎  
 春 木 一 郎  
 橋 本 良 平  
 馬 場 敬 次  
 橋 爪 明 男  
 花 井 忠  
 西 川 一 男  
 新 津 米 造  
 堀 江 專 一 郎  
 堀 竹 雄

長島毅	中村久四郎	孫田秀春	高宮誠	瀧川政次郎	玉井茂	吉原隆次	川村貞四郎	川村貫治	金澤卯一	和田清	岡村玄治	生出徳治	太田嘉太郎	千葉勉	道家齊一郎	穂積重遠
榑崎敏雄	内藤濯	根津千治	田中誠二	高谷實太郎	田中阿歌麿	吉村源太郎	片山金章	金森徳次郎	鹿野清次郎	渡邊大輔	岡田誠一	緒方清	太田哲三	沼波守	豊田收	堀光龜
長崎玄勝	中村武	根本剛	竹歳萬治	高島爲雄	高木信威	吉田東作	吉田久	河邊久雄	川原次吉郎	渡邊末雄	大塚金之助	小原直	大井靜雄	織田嘉七	豊水道雲	細野長良
内藤修一郎	柳樂健治	中尾芳助	武久爲二	丹後愛二郎	立田鐵二	高窪喜八郎	吉田常次郎	神谷健夫	川原侃	片山義勝	大山常藏	岡倉一郎	及川徳助	大館堯壽	土肥主税	ペツオールド

島田鐵吉	宮越健太郎	宮川榮一	齋藤直一	佐竹三吾	青木一男	出羽重三	後藤市藏	二上兵治	榎村正介	前田直之助	八木澤善次	山田準次郎	草野貞之	桑田熊藏	野口保市郎	中川友長
篠窪貢亮	三橋市太郎	三浦吉兵衛	菊井維大	佐々野章邦	阿久津謙二	寺内淳次郎	コリガン	藤井悌	松本潤一郎	松原一雄	矢追秀作	矢部克巳	栗栖尠夫	久保久	野間譽雄	頼成一
柴田甲四郎	三輪末彦	三浦義道	見尾勝馬	佐々木良一	淺井治平	阿部文二郎	遠藤源六	小林郁	丸山常吉	松浦要	柳川昌勝	山内正瞭	黒澤清	黒崎定三	野田駱太郎	村上恭一
島田徳	島壽他三郎	三橋久美	美濃部達吉	坂口武之助	淺沼彦一郎	天野徳也	遠藤武治	小林一郎	松南健彦	増子懷永	松本丞治	柳川勝二	功力金二郎	熊野吉次郎	野村三郎	村瀬直養

土 方 寧	平 井 三 次	泉 二 新 熊	ス テ ル ン ベ ル ヒ	杉 山 善 次 郎
廣 井 辰 太 郎	平 山 孝	森 卷 吉	角 信 雄	
樋 貝 詮 三	日 比 野 規 壽	杉 程 次 郎	須 田 滋	
平 井 彦 三 郎	森 田 豊 次 郎	杉 本 榮 一	鈴 木 武 志	

## 卒業者及在學者數

○現在迄の卒業者は總數一萬三千三百八十八名にして其中行政官たる者あり司法官たる者あり辯護士たる者あり又貴衆兩院議員及政治家たる者あり法學博士の學位を有する者あり其他公吏及公務員、實業家、新聞記者等と爲りて各地に散在し公私の爲社會國家に貢獻しつゝある者枚舉に遑あらず唯吾人の深く憾とする所は總數の中既に鬼籍に入りたる者千二百二十七名の多きを數ふるに至れることなり

○次に現在學籍に在る學生總數は五千三百十七名にして其各部各科別左の如し

△大學部		△專門部	
豫  科	一、三五	法學科	一、八四五
法學部	四九	經濟學科	一、〇三
經濟學部	六	商學科	六四
商學部	五	△研究科	一七
△大學院	七		

## 學員會及學友會

○本大學卒業者並に教職員を以て中央大學々員會を組織し學員相互の交誼を保全し智識を交換するを目的とす

○本大學卒業者並に教職員を以て中央大學々員會を組織し學員相互の交誼を保全し智識を交換するを目的とす  
學員會は本部及支部に分れ本部は東京市に置き支部は各地に置く  
本部に理事七名及評議員八十名を置き支部に若干名の理事を置く  
現在の支部左の如し

關西支部	上毛支部	静岡支部	千葉支部
埼玉支部	横濱支部	東北支部	長野支部
札幌支部	北越支部	名古屋支部	臺灣支部
九州支部	福岡支部	北陸支部	山形支部
秋田支部	廣島支部	函館支部	茨城支部
京城支部	釜山支部	青森支部	高知支部
山梨支部	奉天支部	大連支部	

○本大學學生を以て中央大學學友會を組織し會員相互の親睦を圖り中央大學の學風を發揚し併せて學術の研究、辯論、文章の練磨、體育の獎勵を目的とす  
本會に總務部、學藝部及體育部を置き總務部は庶務會計を掌理す學藝部及體育部に夫々左の各會



あり

學藝部

法學會  
政治學會  
經濟學會  
商學會  
辭達學會  
英語學會

尙ほ學藝部に於ては中央大學學友會誌を發行す

體育部

柔道會  
劍道會  
庭球會  
水泳會  
競走會  
相撲會  
乘馬會  
蹴球會  
籠球會

## 圖書館の沿革と現狀

本大學に於ては創立以來圖書館の設備に付ては不斷の努力を繼續し來たり明治二十年には附屬圖書館の外故高橋一勝氏記念の爲めに設置せられたる高橋法律文庫の保管を依囑せられ學生の修學に多大の便益を得たるが同二十五年四月神田大火の際類焼の災に罹り數萬の藏書悉く焼失す翌年一月花井卓藏外十九氏出身者に移檄して圖書蒐集の企てを爲し圖書館の復興を見たり爾後年々圖書の購入に意を用ひたる所同四十四年四月に至り奥田義人氏が在職二十五年の久しきに亘りたるを以て記念の爲本學内に奥田文庫を設立すること爲り獨逸國フオン・ビルクマイヤー博士の文庫八千三百十一卷の讓與を受け之を奥田文庫に充つ是れ原嘉道、花井卓藏、太田資時、大場茂馬、田中隆三、佐藤正之、三宅碩夫外三十七氏の寄附に係るものなり然るに大正六年の火災に因り多年苦心蒐集したる圖書數萬部、奥田文庫を始め一萬餘部及諸家より寄託の書籍復悉く烏有に歸したり是に於て乎本大學は爾後奮て之か恢復に力を注ぐ大正七年十月には學員福田辰五郎氏遺族より氏遺愛の書籍を寄贈せられ同十年十一月には佐藤正之氏が在職三十年記念會の舉行せらるゝや同會より記念圖書二千餘部の寄贈あり同十一年十二月には文學博士法學博士末松謙澄子爵未亡人生子乃自より博士遺愛の書籍及圖書資金を寄附せられたるを以て本大學圖書館内に末松文庫を設く尙ほ同十年十月には故學員武田鬼十郎氏遺族より氏遺愛の書籍を寄附せられ其他穂積重遠、故學員石井謹吾氏及三宅碩夫氏遺族其他十數氏より寄贈を受けたる書籍尠からず更に同十五年二月故岡

野學長遺族より博士遺愛の藏書竝に圖書資金の寄附を受けたるを以て岡野文庫を設置したり  
 爰に特筆すへきは大正十三年一月宮岡恒次郎氏の斡旋に因り「カーネギー」財團出版の圖書全部の  
 寄託を永久に受くることゝ爲りたることなり又故菊池學長を記念する爲めに菊池文庫設置の企劃  
 同人の間に成りて今や著々進行中に屬す尙ほ大正十五年十一月穗積文庫の設置せられたることは  
 既に記したる所の如し

大正十二年の大震災火災の際は圖書館の建築鞏固なりし爲め幸ひ類焼を免れたるを以て前記寄贈を  
 受けたる書籍を別とし本大學か購入したる圖書は左の如し因に本大學圖書館の現状は此の如くに  
 して足れりと爲すへからす従つて今後圖書館の建築に著手し内外の書籍を多數購入して之か充實  
 を期しつゝあり

種 類	和		洋		計 (洋 和)	
	部 數	冊 數	部 數	冊 數	部 數	冊 數
法 律	四三五	五五六	五五四	九七八	九九三	一五五七
經 濟 商 業	二六六	一六三	三三三	五三〇	四九九	七四三
社 會 政 治	二六七	二六三	一〇二	一八六	二三四	三九六
其 他	四七四	六四九	七〇八	二五六	五四三	八五七
計	一五九五	一五九三	一〇七七	一九六二	二二七二	三五四五

## 寄附者芳名録

本大學が累次の災禍に拘はらず今日の隆昌を來たしたる所以のものは左記各位の寄附に負ふ所至大なり爰に芳名を録し竝せて感謝の微意を表す尙ほ明治三十八年創立二十年記念講堂建築竝に同四十二年創立記念増築の際は多數學員諸氏か其の資金を寄附せられたるも其建物が大正六年の火災に因り焼失したるは吾人の深く遺憾とする所なり

井上市太郎	今田鎌太郎	伊藤五郎治	岩田一郎	稻澤庄次郎
岩瀬修治	石田安治	池上馬之助	飯田高朗	今澤磯之輔
石津專一	伊藤悌治	石山龍雄	伊藤徳順	稻垣宗次郎
生田清三郎	伊藤浩藏	石川吉衛	岩本喜之助	岩瀬健三郎
石塚讓	伊藤欣造	稻澤三典	井上武八	一柳淑吉
伊藤萬太郎	石谷傳市郎	池田虎一	井上剛一	伊藤久次郎
岩本麻次郎	石井謹吾	市川廉	稻村藤太郎	石山石次郎
石原毛登馬	井上敏明	乾喜代八	市村雷藏	磯谷幸次郎
市島徳次郎	伊藤秀雄	飯田延太郎	石川文吾	飯沼鬼一郎
岩崎鐵次郎	池田次雄	稻田周之助	市來彦吉	伊澤芳造
岩田匡彦	稻木重俊	岩田鎌三郎	今幡西衛	岩崎小彌太
岩井正次郎	石野頼由	一又安平	石井清	今村重衛

錦織 幹	西村 勘之助	西川 一男	橋本 正男	原 義介	羽田 實	原 嘉道	服部 金太郎	早川 重躬	原 定男	林 安宅	濱口 末喜	井上 斗一	稻田 正雄	伊藤 義平	石山 彌平	入江 鼎	居森 敏
西田 一格	西谷 清雄	西村 轉三	濱口 重利	伴 善光	馬場 金吾	芳賀 喬一	春木 一郎	林 頼三郎	早速 整爾	半澤 久次郎	花井 卓藏	石田 實	井村 孝介	井上 朗三	石 關辰藏	伊藤 邦雄	入山 知一
新田 法教	西田 四郎	新野 傳吉	早川 濱一	秦 桓	馬場 鏊一	挾間 大治郎	花園 兼定	馬場 豊三郎	服部 豊吉	花 田 節	葉山 萬次郎	猪飼 策二	石塚 嘉弋	池田 豊三郎	岩城 藤平	石渡 信孝	飯島 莞爾
西山 其星	新妻 誠一	仁井田 益大郎	西野 其弟	橋本 豊吉	濱田 國松	濱田 和三郎	原 六郎	伴平 太郎	林 千八	服部 世民	林 茂 増	猪熊 國三郎	井手 力之助	岩井 敏江	今西 貞夫	石井 政吉	岩下 知敦
西方 利馬	西 浦 實	西島 佐吉	西原 晁臣	波多野 重太郎	橋本 健之助	花香 隆保	原田 笹一郎	長谷川 方文	馬場 愿治	原田 繁藏	花本 福次郎	芳賀 保彦	池田 清秋	伊藤 愛三郎	池原 鹿之助	稻田 久馬	糸鬢 卯三郎

二宮圓三	堀竹雄	細谷五郎	堀江幸市	本田常吉
本城三郎	星野太郎	星野徳一	本間伊平治	本田典太郎
朴勝彬	堀江專一郎	細谷智之介	堀切善兵衛	堀田貞藏
本庄京三郎	堀伍一郎	堀江勉作	本多智藏	堀川寅次郎
本田源藏	穂積儀一	堀一徳	穂積マツ子	穂積重遠
堀口良雄	鳥居錦次郎	戸田承	徳田直吉	所銀作
富田勇太郎	東條正平	富田祐太郎	徳永善太郎	富所俊次郎
鳥山喜一	戸田正憲	豊島愿	鳥山利孫	戸倉惣太郎
富澤寅吉	東京火災保險會社	豊島良昌	外山福男	豊田才次郎
徳丸公重	土井哲之	豊島精太郎	戸田惣太郎	徳永平次
千葉公賛	張憲	近川清澄	千脇尙徳	近澤武男
千葉彦治	近津又吉	中央火災傷害保險會社	李冕宇	李升雨
李源讚	林崎監次郎	岡田淳司	奥田保藏	大島恒治郎
小栗盛太郎	岡田實麿	大澤嘉太郎	尾崎重美	岡松參太郎
小山殘平	岡村將	岡崎一治	大橋三郎	奥村三樹之助
大谷彰一	大川萬二郎	大川清一	大河原卯八	大田黒英記
大柴裔次郎	大知新太郎	奥田勝太郎	岡田宇之助	大森富彌
大橋樹太郎	岡部直温	小野政太郎	大石五郎	大原庄太郎

河村正憲	川上定次郎	鹿野清次郎	脇田勇	渡邊卓	渡邊鈴衛	大松直重	奥田剛郎	岡野敬次郎	大西光治	大隅要之助	大野智	大場茂行	小倉敬止	大橋與四郎	大久保與三吉	太田團野	小貫元
川島銀平	河口林作	門脇滋樹	渡邊常太郎	鷺見龜五郎	綿貫清隆	渡邊勸十郎	岡田榮	大久保久三	尾關義一	奥村數次郎	小野澤龍吉	岡見清直	岡野涉	尾畑喜平	岡辨良	岡島峯藏	岡村美穂松
川村貫治	川手忠義	梶尾圓平	綿引寅太郎	和田徹一	渡邊福三郎	渡邊英三	太田哲三	岡田榮太郎	大坪信彦	大島實太郎	岡本卯之助	岡林猛	小野貢	小川紋太郎	岡崎熊三郎	太田彌一郎	沖田敏太郎
加藤一郎	河合廉一	嘉山幹一	綿野玉次	渡部鐵太郎	若尾璋八	和田良平	大塚武	小山田實	男庭善之助	沖島哲二郎	大久保雅彦	小野廉	小野龜次郎	小山靖男	荻野對助	小川好知	大島三橘
川鍋鐵馬	鴨志田直貞	金澤卯一	片山寛	渡邊要之助	渡邊吉右工門	和田杠治	奥泰吉	小山初治	生越義信	大川貞次郎	大照常弘	小野武敏	大西利夫	尾崎利中	岡田泰藏	大岩勇夫	大内省三郎

金子保次郎	川上勉	川田久信	上條桂十郎	金子富次郎	河合健三	龜山慎一	金子光藏	金井彌四郎	川崎壽太郎	貝島合名會社	吉田正三郎	吉澤周一	吉原謙亮	吉川等	吉岡初次郎	竹村昌計	田邊喜一
川瀬周次	加瀬禧逸	甲斐縁	川久保源治	鹿又武三郎	川井金一郎	加藤萬四郎	金子光太郎	川村彌一郎	川上清	河井智茂	横山慶朝	頼信藤四郎	横山理七郎	横島常三郎	吉村弘	高田似壠	瀧森友吉
樫谷政鶴	貝塚徳之助	川谷宮太郎	川島仟司	梶屋貞	神野平太郎	門屋直哉	川野啓藏	兼松謙太郎	金井延	川端久吉	吉村長次郎	吉田輝一	横田好實	依田弘	武田鬼十郎	田尻隣造	高木三郎
上内恒三郎	河田貫三	龜山要	河野秀男	加瀬和三郎	鮎澤榮三郎	覺本覺治	香取眞策	金澤善一	笠原正史	横田民造	吉澤米造	吉田孝	吉田久	吉野豊次郎	谷忠行	立作太郎	田中太次郎
粕川保三	片山義勝	菅野鉦治	片岡善太郎	金子安次郎	勝本勘三郎	河和金作	片山金章	金子鶴一	加藤兵衛	横田秀雄	横田千之助	吉益俊次	吉村幹三郎	吉田金司	玉川豊吉	谷村唯一	高橋修一



中川銑三郎	長島毅	中村進午	根村俊彌	角田睦徳	土屋理喜治	染木清文	給田智茂	玉木彌平	高野馨六	田口菊太郎	竹内幸次	高杉常五郎	田中健一	田邊和一郎	高野金重	谷野格	田崎慶一
中塚松太郎	中川眞太郎	中村耕司	根本仙三郎	土山俊	筒井清良	辻本友次郎	副島寅三郎	竹井小野右衛門	多田常太郎	鷹野茂雄	田中健之助	竹内静三	武川清次	高野亦男	竹内鑄作	高木國尙	高柳覺太郎
長塚忠策	長岡熊雄	繩手浦之進	猫山壽春	椿原常太郎	堤重恭	常川元次郎	曹汝霖	高橋靜一	田村松之介	田中主税	谷本貞雄	田中丑之助	田坂佐三郎	高島俊雄	田中利三	高島愿	高野兵太郎
内藤諒太郎	中口末松	中山佐市	生井耕造	鶴田恣	坪山彦九郎	筒井雪郎	宗弘一	高木信威	高橋忠義	田原七三郎	竹野竹三郎	高木藏吉	竹下順一	太宰孝吉	高窪喜八郎	田中文藏	高田級一郎
中島正堅	永井定	成瀬仁喜太	奈佐忠行	根津千治	塚越翁太郎	續信一	會根原光太郎	田村貞	高宮誠	玉井喜久市	田中武	竹内龜市	田中唯七	高根義人	高橋勸	武田明	谷眞心

久保田政良	栗本武三	野島勝七	野村與三太郎	臼田潔	浮洲福雄	植木信一	浦上齋	村上恭一	村上彌太郎	村上民三郎	中村武	内藤正知	永岡外次	長尾梅吉	中野勇治郎	中西清吉	永井徳太郎
國井常吉	黒田穰	野村喜代次	野山正樹	宇都宮七五	宇佐見盛光	宇留野義彦	卜部喜太郎	村瀬孝文	村田敏	村上太七	長尾肇次郎	中村信太郎	中垣正雄	内藤正剛	中村定	難波辨太郎	中村淑人
熊田幹之助	窪田欽太郎	野上滿雄	野村此平	上野敏郎	梅村大	宇田尙	内海英吉	植木壽雄	村田不二三	村岡禎二郎	永井金次郎	中山峯太郎	長山三郎	中島信夫	中村逸雄	中村泰造	内藤久寛
國貞善一	久保義郎	能條眞	野口源伍	内田留吉	浦部章三	上田平一	宇野庄吉	内田清吉	村井丑之丞	村田次之吉	村田祐治	中務平吉	中村薫	中谷彌	長山壽雄	成宮季一	中村光彌
朽木義春	久米良作	久保秀三	野呂鐵藏	臼井龜太郎	上坂重雄	植田隆	上田貞藏	氏野徳太郎	村上庸吉	武藏康造	村山儀七	仲田光三郎	中村正臣	長濱信太郎	永原庸太郎	七邊格太郎	長島八郎

前田米藏	松尾國太郎	馬淵新與茂	松本安藏	松岡高明	滿藤政太郎	松木弘	山崎源次郎	矢田英敏	八重樫次郎藏	矢崎勘七	山下乙吉	安田壽也	柳澤慎之助	久保内政記	黒田常助	黒木榮太郎	熊倉虎雄
松隈昌隆	眞野歡三郎	松本丞治	前田勝之助	丸尾重典	榊谷益藏	馬淵徳三郎	柳田善吉	山口弘一	山内兵十郎	山口正毅	山田三郎	矢澤榮三	柳川勝二	山崎林太郎	口分田成一	桑島勇	黒田義俊
松島昇	松井親民	牧鹿太郎	松澤常四郎	榎充美	松村菊次郎	松浦與三左衛門	矢野光宏	八木平馬	山口彌三郎	山口陽治	柳田宗一郎	山口重夫	山口貞昌	柳田新治	久保要藏	久保久	楠久接
前田直之助	牧野菊之助	松本員男	眞弓正次郎	松尾泰堂	松元辰之助	町田松次	山口榮一	山口昇	柳澤傳吉	矢部廉	山口鑑太	柳廣一	安田勝次郎	安武千代吉	桑田熊藏	日下吉平	口井勇夫
松森靈雲	牧野賤男	松本吉次	牧野充安	丸山柯太郎	松波孚強	丸山熊八	矢野武馬	山田龍二	山田茂樹	山下龜三郎	山口貞亮	八本信成	柳原右助	山本角之助	熊谷幸輔	熊川千代喜	國枝鎌三

小安德三郎	近藤 朗	兒林百合松	小坂宇太郎	小林武彦	古 閑 勝	藤原此一	藤村寅一	古澤周一	福田市太郎	古谷伊平	福田龜吉	古橋新一	升本重夫	松野清一	松本正寛	正岡義光	松岡敬太郎
小島藤一郎	小八重直三郎	小菅寅吉	近藤武男	五島常次郎	小橋茂直	藤本修三	古屋鐵太郎	福井廣道	福永虎之助	福原嘉之	福田重清	古井辰次	前田勝三郎	松浦五兵衛	松岡一衛	米原光太郎	松本安藏
小池純三郎	小林種吉	小島愛三郎	小泉三次郎	小池國三	五味逸平	福島保三郎	藤 沼 秀	福地孫市	古田良三	二神駿吉	藤井濱次郎	藤井正章	松平篤郎	松下修平	松村寛平	松井貞治	松村眞一郎
近藤久男	小林新太郎	後 藤 積	小林吉之助	腰山長吉	小池毅一郎	藤倉留吉	福田猪之助	古木春藏	藤谷久六	藤岡大英	福原祐三	福田喜久司	權 炳 億	松原左武郎	松倉重春	益子源四郎	丸 川 令
古賀和佐雄	輿石彌久雄	後藤傳兵衛	小菅純三郎	小松 林藏	小泉彦三郎	光明寺 内藏造	二見友三郎	藤村健一郎	藤本徳之進	福田秀太	古 山 島藏	布施金次郎	藤井乾助	松 下 宏	牧石翠二郎	正久孫一郎	松本伊織

後藤 狂夫	兒山 隆	永瀧 久吉	遠藤 正規	遠藤 源六
江川 甚一郎	海老原 重	江面 島造	遠藤 武治	江浪 時雄
遠藤 盛邦	海老原 一	遠藤 清平	榎本 良三	越後 仁三郎
遠藤 靖之助	江川 六兵衛	江波 戸文夫	寺島 元重	寺島 由松
寺尾 規矩郎	手塚 彦太郎	寺田 道夫	手代木 佑壽	寺川 三藏
寺岡 佐市	出口 元久	寺崎 安記	手塚 光貴	赤沼 正豪
足立 重雄	有賀 光豊	阿部 直藏	阿部 文二郎	天野 徳也
天野 宗太郎	淺井 金吾	姉齒 松平	赤井 定義	會澤 茂
安達 駿三郎	秋山 彌助	淺野 三秋	有馬 卓治	天野 武雄
秋山 專藏	赤松 治部	青木 雷三郎	青山 衆司	芥川 平吉
新井 要太郎	安藤 則光	東兵 右衛門	阿部 壽準	東 忠藏
新納 情二	麻生 和輔	安達 元之助	淺沼 彦一郎	秋元 九十九
淺沼 猪助	淺野 正太郎	相原 文四郎	荒井 操	淺野 松次郎
阿部 彌一郎	東 武	有年 準三	秋本 豊之進	秋山 清
荒木 勇吉	阿武 義一	安齋 林八郎	朝比 奈孝一	阿多 俊介
青木 重司	新井 司馬五郎	安立 守藏	天田 伊兵衛	東 一雄
青山 幾之助	淺野セメント株式會社	佐藤 三吾	佐 久 節	櫻田 平治
佐藤 正之	坂野 竹之助	佐藤 郡八郎	佐々木 清綱	指田 義雄

菱和藤治郎	宮崎三郎	三浦大之助	金用茂	北岡鶴松	菊池重久	岸清一	木村壽平	北島和作	佐々木重夫	坂口徳藏	酒井道之助	佐藤修	佐々木鐵藏	佐野春五	澤田宏	佐々木軌三	佐伯彪
三田幸司	水島房吉	三浦吉兵衛	結城朝陽	金志健	清輔爲太郎	君塚春吉	木村治朗	木村兼好	木寺享重	坂本文夫	阪本彌一郎	佐藤健三	齋藤豊	坂本萬作	榊原呈治	佐藤章次	齋藤庄三郎
三浦濟吉	宮川琴次郎	三井純一	湯淺啓次郎	北村木次郎	木村通	岸野順二	木村競次郎	木戸梅藏	木村精一	佐竹晴記	作田高太郎	佐藤太眞伎	齋藤豊之進	齋藤政太郎	佐原寅三郎	佐々木佐吉郎	坂本生成
宮部準次	三富濱太郎	三浦丑太郎	柚木角衛	菊池香一郎	姜雲變	紀志嘉實	木下謙次郎	喜多孝治	木付綱磨	佐々木三郎	佐藤清	佐々木幸助	佐藤忠雄	佐々木精太郎	齋藤二郎	佐藤得太郎	佐久間榮
三井三左衛門	宮本良太郎	三宅碩夫	溝部佐一郎	北村藤太郎	北村賢樹	菊地四郎	桐谷圓藏	北村良平	木村時秀	佐々木智一	佐藤久三郎	齋藤孝一郎	齋藤正毅	佐藤俊龍	齋藤芳太郎	澤村直	阪上貞信

宮澤要次郎	宮澤武七	三橋市太郎	三浦敬次郎	三浦清	宮田萬藏	三浦虎太	三浦榮作	執行軌正	島野金吾	白井茂	篠原泰助	篠崎仙司	白旗松之助	篠崎健三	島田徳	平山勳次	平森文五郎
峰松茂三郎	宮下三夫	三橋久美	三根谷實藏	水野廣治	宮田榮太郎	三谷錦太郎	白倉吉朗	紫雲義一郎	島村他三郎	志賀三行	鹽谷恒太郎	下村善重郎	下森久吉	志賀貞次郎	檜垣直太郎	平尾賢次	平井長次郎
三澤清太郎	宮館貞一	三井家	三上直吉	宮部二郎	水谷團治	宮崎哲藏	重藤幹一	鹽坂雄策	城田鶴五郎	所澤貞太郎	柴山正男	城田一誠	白川朋吉	柴田武	廣井辰太郎	廣吉國太郎	弘田伸雄
三浦大五郎	水野博徳	美濃部俊吉	南壽	三善孰彦	三浦義道	島田鐵吉	鹽尻彌太郎	篠原四郎吉	白鳥健	白鳥保五郎	重信喜太郎	柴田甲四郎	鹽滿幸平次	設樂義男	平城慈門	日山彦十郎	平松市藏
溝上與三郎	宮地正彰	水町新三	宮尾武男	水谷鐵吉	三宅益次郎	進藤誠一	白尾清次	清水泰次郎	品川英一	澁澤榮一	島田久太郎	志水小一郎	柴田廣吉	下村逸進	平井彦三郎	平塚均	平田泰次郎

菅藤孟	鈴木敬義	鈴木功	須原大助	杉坂實	杉程次郎	妹尾與志夫	關口專宇	森武喜	森島瀧槌	森彦逸	森本邦治郎	平野吉左衛門	樋貝詮三
菅野芳之助	杉本初雄	鈴木功清	砂田重政	鈴木新三	鈴木濟美	關野唯一	清家齊	森龜雄	森榮	茂木英雄	諸留勇助	日能僂太郎	比企鏡三郎
	杉田卷太郎	砂田精次郎	鈴木蒨	杉原丈太郎	杉山虎雄	鈴木秀太郎	清田龍之助	榎木新作	森清	本宮一男	泉二新熊	平田讓衛	平尾縫太郎
	末次義清	杉本善次郎	須田千五郎	末正盛治	杉山彌三郎	鈴木銈太郎	妹尾嚴	森房美實	茂木類吉	森田愛次郎	師岡廉治	弘重定一	久野工
	菅野鉦一郎	須賀正俊	住友吉左衛門	菅俣久助	鈴木庄助	諏訪貫一	瀨下清通	關矢恕一	持田諛	森田久忠	森源作	廣田米三郎	土方寧

(本記事は匆卒の際に成り誤謬又は遺脱なきを  
保し難し其責一に編者に在り(編輯者識))